第5次出産力調査結果の分析 (3)

小 林 和 正

目　　次

まえがき
Ⅰ　調査の概要
　1　調査方法
　2　調査地域
　3　調査対象
　4　調査の手順
　5　調査事項
　6　調査結果の集計
Ⅱ　妻の年齢別出生児数
　1　はじめに
　2　出生児数の傾向曲線
　3　傾向値による平均出生児数の地域比較
　4　要　約（以上第110号）
Ⅲ　結婚コーホートによる出生力の地域比較
　1　はじめに
　2　1夫婦当たり平均出生児数
　3　パリティー構造
　4　地域差の総括的考察（以上第112号）
Ⅳ　結婚コーホートによる出生力の推移
　1　はじめに
　2　結婚コーホート出生力表
　3　平均累積出生児数の推移
　4　パリティー拡大率の推移
　5　出生順位別出生確率の推移
　6　要　約（以上本号）

Ⅳ　結婚コーホートによる出生力の推移

1　はじめに

この章は全域の夫婦を結婚コーホート別に分け，各コーホートごとに，結婚時からの年数経過にそった夫婦の出生力表を作成し，その諸項目にもとづいて，夫婦出生力の時代的推移を観察しようとするものである．前回の報告（本誌第112号）* においてすでに結婚コーホート別観察を行なったが，地域比較を行なうことが主目的で，各コーホートについての結婚持続期間各年別による詳細な観察はそこでは行なわなかった．本章では地域比較は一切行なわないが，各コーホートについての逐年的な出生力の動向を詳細に観察する．なお，観察対象の夫婦は，前回報告と同様に妻の結婚年齢30歳未満の初婚同士夫婦に限られている．

* 小林和正「第5次出産力調査結果の分析(2)」『人口問題研究』第112号，1969年10月，1～20ページ．

本章では，まず用いようとした結婚コーホート出生力表について解説したのち，平均累積出生児数，パリティー拡大率および出生順位別出生確率の順で，各結婚コーホートの出生力の逐年的動向ならびにコーホート間の変化を観察する．

2 結婚コーホート出生力表

この報告で，結婚コーホートの出生力の比較のために作製した出生力表の作製原理は，すこぶる簡単なものであり，しかも生命表の作製の場合に通常かならず行なうような補整的操作も一切施さない粗表のままのものである．この出生力表を用いて何かの推計的計算でもする場合には，出生力表の各関数に対して補整を行なう必要があると考えるが，この報告で，各結婚コーホートの間の出生力を比較するかぎりでは，粗表のままで，ある程度目的を達することが可能であり，かなりの所要時間が伴うとみられる補整計算は，あえて行なわなかった．

以下，その作製の手順を簡単にのべるが，説明の材料として，表1，すなわち結婚5～9年の夫婦

表 1　1957－62結婚コーホート出生力表(妻の結婚年齢30歳未満の結婚5～9年の初婚同士夫婦)：全域

結婚持続期間(年)	(A) 各結婚持続期間中の出生順位別出生児数				(B) 左の(A)各欄の累積				
	第1子	第2子	第3子	第4子	第1子	第2子	第3子	第4子	計
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)
0	617	—	—	—	—	—	—	—	—
1	1,186	29	—	—	617	—	—	—	617
2	324	317	1	—	1,803	29	—	—	1,832
3	109	571	23	—	2,127	346	1	—	2,474
4	46	461	82	1	2,236	917	24	—	3,177
5	‥	‥	‥	‥	2,282	1,378	106	1	3,767

結婚持続期間(年)	(C) 結婚持続期間各期首における累積出生児数別夫婦組数					(D) 出生順位別結婚持続期間別出生確率(%)			
	無子	1児 (5)－(6)	2児 (6)－(7)	3児 (7)－(8)	4児 (8)	第1子 (1)／(10)	第2子 (2)／(11)	第3子 (3)／(12)	第4子 (4)／(13)
	(10)*	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)
0	2,416	—	—	—	—	25.54	‥	‥	‥
1	1,799	617	—	—	—	65.93	4.70	‥	‥
2	613	1,774	29	—	—	52.85	17.87	3.45	‥
3	289	1,781	345	1	—	37.72	32.06	6.67	—
4	180	1,319	893	24	—	25.56	34.95	9.18	4.17
5	134	904	1,272	105	1	‥	‥	‥	:

結婚持続期間(年)	(E) 結婚持続期間各期首におけるパリティー拡大率(%)				(F) 結婚持続期間各期首における1夫婦当たり平均累積出生児数
	P_0	P_1 (6)／(5)	P_2 (7)／(6)	P_3 (8)／(7)	(9)／2,416
	(19)**	(20)	(21)	(22)	(23)
0	—	‥	‥	‥	—
1	25.54	—	‥	‥	0.26
2	74.63	1.61	—	‥	0.76
3	88.04	16.27	0.29	—	1.02
4	92.55	41.01	2.62	—	1.31
5	94.45	60.39	7.69	0.94	1.56

* 夫婦総組数2,416より欄(5)各行の数字を差し引いたもの．

** 夫婦総組数2,416で欄(5)各行の数字を除したもの．

（1957－62結婚コーホート）の出生力表を用いよう．

まず，結婚持続時間（各年別）各期間中に出生した児数を出生順位別に記入する．それが(A)の欄(1)～(4)である．この1957－62結婚コーホートでは結婚最初の5年間の最大出生児数は4児である．

次に，これら欄(1)～(4)の各欄について，出生児数を表の上から下に向って累積してゆく．それが(B)の欄(5)～(8)である．この場合，(A)欄(1)の結婚持続期間0年(＝1年未満)の出生順位第1子出生数617は，(B)欄(5)では結婚持続期間1年の行に記入し，以下この位置にしたがって順次累積和を記入してゆく．このようにすると，この(B)各欄の数字は，結婚持続期間の期首における各出生順位の子を出生した夫婦組数の累積を示することになる．たとえば，欄(5)の2,282という数字は，結婚して丸5年経過し終った時点における第1子出生経験のある夫婦組数を示す．なお，欄(5)～(8)の各結婚持続期間別の合計を欄(9)に記入する．

次に，この1957－62結婚コーホートの夫婦組数は2,416組であるが，欄(5)の数字をそれぞれこの2,416から差し引いて，この差を(C)欄(10)に記す．この欄(10)は，結婚持続期間各期首における無子夫婦組数を示すことになる．次に欄(5)と(6)との差を欄(11)に記す．これは結婚持続期間各期首における1児夫婦の組数を示す．同様に2児夫婦組数は欄(6)と(7)との差〔欄(12)〕，3児夫婦組数は欄(7)と(8)との差〔欄13〕によって求める．4児夫婦の組数は欄(8)と全く同じであるが，あとの便宜のために，これをあらためて欄(14)として記入しておく．

次に(D)の欄(15)～(18)において，出生順位別の出生確率を求める．欄(15)は欄(1)を(10)で除し，欄(16)は欄(2)を(11)で除し，欄(17)は欄(3)を(12)で除し，欄(18)は欄(4)を(13)で除して求める．たとえば，欄(16)の4.70％という数字は，欄(2)の結婚持続期間1年における第2子出生数29を，欄(11)の結婚持続期間1年の初めにおける1児夫婦組数617で除した値であって，結婚持続期間1年の期間中に1児夫婦から出生順位第2子が出生する確率を示す．ただし，厳密なことをいうならば，この(D)の各欄で求めた出生確率は，かならずしも精密なものでないこともありえよう．そのわけは，結婚持続期間t年の1年間に出生順位第n子（n≧2）を出生した夫婦のうちには，そのt年の初めには（n－2）児の夫婦であったものも含まれうるからである．すなわち，t年の初めには（n－2）児夫婦であったが，それから直ぐに第（n－1）子を生んで（n－1）児夫婦となり，t年の終りに第n子を生む可能性もあるからである．もしそういう夫婦のいる場合には，t年に第n子を出生した夫婦のすべてがt年の初めに（n－1）児夫婦であったわけではないことになり，上記で求めた出生確率は実際よりも僅かではあろうが高めに出ることになる．しかし，上記のようなケースは稀れなものとして考慮外においた．

次に(E)の欄(19)～(22)において結婚期間各期首におけるパリティー拡大率を求める．欄(19)はこのコーホートの夫婦組数2,416で欄(5)を除したものであって，すなわち，結婚持続期間各期首において，それまでに1児以上を出生した夫婦の割合を示し，これを P_0 とする．欄(20)は欄(6)を(5)で除したもので，結婚持続期間各期首において，それまでに1児以上を出生した夫婦のうちで2児以上を出生した夫婦の占める割合を示す．これを P_1 とする．以下同様にして，欄(21)で P_2 を，欄(22)で P_3 を求める．

最後に(F)において，欄(9)をコーホートの夫婦組数2,416で除することにより，結婚持続期間各期首における1夫婦当たり平均累積出生児数〔欄(23)〕を求める．

以上の方法は，表2～4を通じて，全く同様である．ただし，表2～4では，出生順位が第5子以上あるので，欄の数が多くなり，表が長くなっている．

3　平均累積出生児数の推移

各結婚コーホートの示した出生力の差異を．まずはじめに大づかみに概観するために，表1～表4

表 2　1952－57結婚コーホート出生力表(妻の結婚年齢30歳未満の結婚10～14年の初同婚士夫婦)：全域

結婚持続期間(年)	(A) 各結婚持続期間中の出生順位別出生児数					
	第 1 子	第 2 子	第 3 第	第 4 子	第 5 子	第 6 子
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
0	472	—	—	—	—	—
1	1,068	15	—	—	—	—
2	283	283	1	—	—	—
3	127	474	22	—	—	—
4	51	412	86	1	—	—
5	33	276	153	15	—	—
6	12	167	150	27	—	—
7	12	88	113	36	6	—
8	9	54	72	29	9	2
9	8	27	60	22	4	2
10	..	..	..	..	..	..

結婚持続期間(年)	(B) 左の(A)各欄の累積						
	第 1 子	第 2 子	第 3 子	第 4 子	第 5 子	第 6 子	計
	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)
0	—	—	—	—	—	—	—
1	472	—	—	—	—	—	472
2	1,540	15	—	—	—	—	1,555
3	1,823	298	1	—	—	—	2,122
4	1,950	772	23	—	—	—	2,745
5	2,001	1,184	109	1	—	—	3,295
6	2,034	1,460	262	16	—	—	3,772
7	2,046	1,629	412	43	—	—	4,130
8	2,058	1,717	525	79	6	—	4,385
9	2,067	1,771	597	108	15	2	4,560
10	2,075	1,798	657	130	19	4	4,683

結婚持続期間(年)	(C) 結婚持続期間各期首における累積出生児数別夫婦組数						
	無　子	1 児 (7) — (8)	2 児 (8) — (9)	3 児 (9) — (10)	4 児 (10) — (11)	5 児 (11) — (12)	6 児 (12)
	(14)*	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)
0	2,176	—	—	—	—	—	—
1	1,704	472	—	—	—	—	—
2	636	1,525	15	—	—	—	—
3	353	1,525	297	1	—	—	—
4	226	1,178	749	23	—	—	—
5	175	817	1,075	108	1	—	—
6	142	574	1,198	246	16	—	—
7	130	417	1,217	369	43	—	—
8	118	341	1,192	446	73	6	—
8	109	296	1,174	489	93	13	2
10	101	277	1,141	527	111	15	4

結婚持続期間(年)	(D) 出生順位別結婚持続期間別出生確率(%)					
	第 1 子 (1)／(14)	第 2 子 (2)／(15)	第 3 子 (3)／(16)	第 4 子 (4)／(17)	第 5 子 (5)／(18)	第 6 子 (6)／(19)
	(21)	(22)	(23)	(24)	(25)	(26)
0	21.69	..	..	..	..	..
1	62.68	3.18	..	..	..	..
2	44.50	18.56	6.67	..	..	..
3	35.98	31.08	7.41	—	..	..
4	22.57	34.97	11.48	4.35	..	..
5	18.86	33.78	14.23	13.89	—	..
6	8.45	29.44	12.52	10.98	—	..
7	9.23	21.10	9.29	9.76	13.95	..
8	7.63	15.84	6.04	6.50	12.33	33.33
9	7.34	9.12	5.11	4.50	4.30	15.38
10	..	..	..	—	..	..

（表２つづき）

結婚持続期間（年）	(E) 結婚持続期間各期首におけるパリティー拡大率（%） P_0	P_1 (8)／(7)	P_2 (9)／(8)	P_3 (10)／(9)	P_4 (11)／(10)	P_5 (12)／(11)	(F) 結婚持続期間各期首における１夫婦当たり平均累積出生児数
	(27)**	(28)	(29)	(30)	(31)	(32)	(33)***
0	—	..	..	..	..	..	—
1	21.69	—	..	..	..	..	0.22
2	70.77	0.97	—	..	..	..	0.71
3	83.78	16.35	0.34	—	..	..	0.98
4	89.61	39.59	2.98	—	..	..	1.26
5	91.96	59.17	9.21	0.92	—	..	1.51
6	93.47	71.78	17.95	6.11	—	..	1.73
7	94.03	79.62	25.29	10.44	—	..	1.90
8	94.58	83.43	30.58	15.05	7.59	—	2.02
9	94.99	85.68	33.71	18.09	13.89	13.33	2.10
10	95.36	86.65	36.54	19.79	14.62	21.05	2.15

* 夫婦総組数 2,176 より欄(7)各行の数字を差し引いたもの.
** 夫婦総組数 2,176 で欄(7)各行の数字を除したもの.
*** 夫婦総組数 2,176 で欄(13)各行の数字を除したもの.

表 3 1947－52結婚コーホート出生力表(妻の結婚年齢30歳未満の結婚15～19年の初婚同士夫婦)：全域

結婚持続期間（年）	(A) 各結婚持続期間中の出生順位別出生児数 第１子	第２子	第３子	第４子	第５子	第６子	第７子
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
0	565	—	—	—	—	—	—
1	948	23	—	—	—	—	—
2	244	329	—	—	—	—	—
3	71	529	31	1	—	—	—
4	30	403	127	1	—	—	—
5	25	193	245	18	—	—	—
6	10	116	206	43	1	—	—
7	15	56	157	68	10	—	—
8	6	44	92	63	7	—	—
9	2	27	73	51	14	3	—
10	6	16	46	31	12	2	—
11	5	10	32	19	15	3	1
12	4	4	14	11	8	5	1
13	3	4	10	9	7	3	2
14	—	3	5	9	1	3	1
15	..	..	..	..	..		..

結婚持続期間（年）	(B) 左の(A)各欄の累積 第１子	第２子	第３子	第４子	第５子	第６子	第７子	計
	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)
0	—	—	—	—	—	—	—	—
1	565	—	—	—	—	—	—	565
2	1,513	23	—	—	—	—	—	1,536
3	1,757	352	—	—	—	—	—	2,109
4	1,828	881	31	1	—	—	—	2,741
5	1,858	1,284	157	2	—	—	—	3,302
6	1,883	1,477	403	20	—	—	—	3,783
7	1,893	1,593	609	63	1	—	—	4,159
8	1,908	1,649	766	131	11	—	—	4,465
9	1,914	1,693	858	194	18	—	—	4,677
10	1,916	1,720	931	245	32	3	—	4,847
11	1,922	1,736	977	276	44	5	—	4,960
12	1,927	1,746	1,009	295	59	8	1	5,045
13	1,931	1,750	1,023	306	67	13	2	5,092
14	1,934	1,754	1,033	315	74	16	4	5,130
15	1,934	1,757	1,038	324	75	19	5	5,152

（表３つづき）

結婚持続期間（年）	(C) 結婚持続期間各期首における累積出生児数別夫婦組数							
	無子	1児 (8)－(9)	2児 (9)－(10)	3児 (10)－(11)	4児 (11)－(12)	5児 (12)－(13)	6児 (13)－(14)	7児 (14)
	(16)*	(17)	(18)	(19)	(20)	(21)	(22)	(23)
0	2,032	—	—	—	—	—	—	—
1	1,467	564	—	—	—	—	—	—
2	519	1,490	23	—	—	—	—	—
3	275	1,405	352	—	—	—	—	—
4	204	947	850	30	1	—	—	—
5	174	574	1,126	156	2	—	—	—
6	149	406	1,074	383	20	—	—	—
7	139	300	984	546	62	1	—	—
8	124	259	883	635	120	11	—	—
9	118	221	835	664	176	18	—	—
10	116	196	789	686	213	29	3	—
11	110	186	759	701	232	39	5	—
12	105	181	737	714	236	51	7	1
13	101	181	727	717	239	54	11	2
14	98	180	721	718	241	58	12	4
15	98	177	719	714	249	56	14	5

結婚持続期間（年）	(D) 出生順位別結婚持続期間別出生確率（%）						
	第1子 (1)／(16)	第2子 (2)／(17)	第3子 (3)／(18)	第4子 (4)／(19)	第5子 (5)／(20)	第6子 (6)／(21)	第7子 (7)／(22)
	(24)	(25)	(26)	(27)	(28)	(29)	(30)
0	27.81	..	..	..	..	..	..
1	64.62	4.07	..	..	..	..	..
2	47.01	22.08	—	..	..	..	..
3	25.82	37.65	8.81	..	..	..	..
4	14.71	42.56	14.94	6.67	—	..	..
5	14.37	33.62	21.76	11.54	—	..	..
6	6.71	28.57	19.18	11.23	5.00	..	..
7	10.79	18.67	15.96	12.45	16.13	—	..
8	4.84	16.99	10.42	9.92	5.83	—	..
9	1.70	12.22	8.74	7.68	7.95	16.67	..
10	5.17	8.16	5.83	4.52	5.63	6.90	—
11	4.55	5.38	4.22	2.71	6.47	7.69	20.00
12	3.81	2.21	1.90	1.54	3.39	9.80	14.29
13	2.97	2.21	1.38	1.26	2.93	5.56	18.18
14	—	1.67	0.69	1.25	0.41	5.17	8.33
15	:	..	..	..	..	..	..

結婚持続期間（年）	(E) 結婚持続期間各期首におけるパリティー拡大率（%）							(F) 結婚持続期間各期首における1夫婦当たり平均累積出生児数
	P_0	P_1 (9)／(8)	P_2 (10)／(9)	P_3 (11)／(10)	P_4 (12)／(11)	P_5 (13)／(12)	P_6 (14)／(13)	
	(31)**	(32)	(33)	(34)	(35)	(36)	(37)	(38)***
0	—	..	..	..	..	..	..	—
1	27.81	—	..	..	..	..	..	0.28
2	74.46	1.52	—	..	..	..	..	0.76
3	86.47	20.03	—	..	..	..	..	1.04
4	89.96	48.19	3.52	3.23	—	..	..	1.35
5	91.44	69.11	12.31	1.27	—	..	..	1.63
6	92.67	78.44	27.29	4.96	—	..	..	1.86
7	93.16	84.15	38.23	10.34	1.59	—	..	2.05
8	93.90	86.43	46.45	17.10	8.40	—	..	2.20
9	94.19	88.45	50.68	22.61	9.28	—	..	2.30
10	94.29	89.77	54.13	26.32	13.06	9.38	—	2.39
11	94.59	90.32	56.28	28.25	15.94	11.36	—	2.44
12	94.83	90.61	57.79	29.24	20.00	13.56	12.50	2.48
13	95.03	90.63	58.46	29.91	21.90	19.40	15.38	2.51
14	95.18	90.69	58.89	30.49	23.49	21.62	25.00	2.52
15	95.18	90.85	59.08	31.21	23.15	25.33	26.32	2.54

* 夫婦総組数 2,032 より欄(8)各行の数字を差し引いたもの.

** 夫婦総組数 2,032 で欄(8)各行の数字を除したもの.

*** 夫婦総組数 2,032 で欄(15)各行の数字を除したもの.

表 4　1942－47結婚コーホート出生力表(妻の結婚年齢30歳未満の結婚20～24年の初婚同士夫婦)：全域

結婚持続期間(年)	(A) 各結婚持続期間中の出生順位別出生児数							
	第1子	第2子	第3子	第4子	第5子	第6子	第7子	第8子
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
0	383	—	—	—	—	—	—	—
1	864	16	—	—	—	—	—	—
2	243	307	2	—	—	—	—	—
3	106	530	28	1	—	—	—	—
4	42	358	177	6	—	—	—	—
5	25	184	289	22	1	—	—	—
6	14	91	291	74	4	1	—	—
7	6	43	189	126	12	—	—	—
8	3	25	98	113	24	3	—	—
9	4	20	64	108	45	1	—	—
10	1	8	37	70	52	9	2	—
11	4	4	26	47	25	13	1	—
12	3	5	15	27	27	23	—	—
13	—	5	3	12	14	8	4	—
14	—	2	4	10	11	7	5	—
15	—	5	1	5	2	5	5	1
16	—	2	2	—	7	3	2	1
17	2	1	1	2	1	3	3	2
18	—	—	—	2	1	—	1	1
19	—	—	—	1	1	1	—	—
20	..	..	..	..	..	..	..	..

結婚持続期間(年)	(B) 左の(A)各欄の累積								
	第1子	第2子	第3子	第4子	第5子	第6子	第7子	第8子	計
	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)
0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1	383	—	—	—	—	—	—	—	383
2	1,247	16	—	—	—	—	—	—	1,263
3	1,490	323	2	—	—	—	—	—	1,815
4	1,596	853	30	1	—	—	—	—	2,480
5	1,638	1,211	207	7	—	—	—	—	3,063
6	1,663	1,395	496	29	1	—	—	—	3,584
7	1,677	1,486	787	103	5	1	—	—	4,059
8	1,683	1,529	976	229	17	1	—	—	4,435
9	1,686	1,554	1,074	342	41	4	—	—	4,701
10	1,690	1,574	1,138	450	86	5	—	—	4,943
11	1,691	1,582	1,175	520	138	14	2	—	5,122
12	1,695	1,586	1,201	567	163	27	3	—	5,242
13	1,698	1,591	1,216	594	190	50	3	—	5,342
14	1,698	1,596	1,219	606	204	58	7	—	5,388
15	1,698	1,598	1,223	616	215	65	12	—	5,427
16	1,698	1,603	1,224	621	217	70	17	1	5,451
17	1,698	1,605	1,226	621	224	73	19	2	5,468
18	1,700	1,606	1,227	623	225	76	22	4	5,483
19	1,700	1,606	1,227	625	226	76	23	5	5,488
20	1,700	1,606	1,227	626	227	77	23	5	5,491

（表４つづき）

結婚持続期間（年）	(C) 結婚持続期間各期首における累積出生児数別夫婦組数								
	無子	1児 (9)－(10)	2児 (10)－(11)	3児 (11)－(12)	4児 (12)－(13)	5児 (13)－(14)	6児 (14)－(15)	7児 (15)－(16)	8児 (16)
	(18)*	(19)	(20)	(21)	(22)	(23)	(24)	(25)	(26)
0	1,778	—	—	—	—	—	—	—	—
1	1,395	383	—	—	—	—	—	—	—
2	531	1,231	16	—	—	—	—	—	—
3	288	1,167	321	2	—	—	—	—	—
4	182	743	823	29	1	—	—	—	—
5	140	427	1,004	200	7	—	—	—	—
6	115	268	899	467	28	1	—	—	—
7	101	191	699	684	98	4	1	—	—
8	95	154	553	747	212	16	1	—	—
9	92	132	480	732	301	37	4	—	—
10	88	116	436	688	364	81	5	—	—
11	87	109	407	655	382	124	12	2	—
12	83	109	385	634	404	136	24	3	—
13	80	107	375	622	404	140	47	3	—
14	80	102	377	613	402	146	51	7	—
15	80	100	375	607	401	150	53	12	—
16	80	95	379	603	404	147	53	16	1
17	80	93	379	605	397	151	54	17	2
18	78	94	379	604	398	149	54	18	4
19	78	94	379	602	399	150	53	18	5
20	78	94	379	601	399	150	54	18	5

結婚持続期間（年）	(D) 出生順位別結婚持続期間別出生確率（%）							
	第1子 (1)／(18)	第2子 (2)／(19)	第3子 (3)／(20)	第4子 (4)／(21)	第5子 (5)／(22)	第6子 (6)／(23)	第7子 (7)／(24)	第8子 (8)／(25)
	(27)	(28)	(29)	(30)	(31)	(32)	(33)	(34)
0	21.54	..	..	..	..	..	..	..
1	61.94	4.18	..	..	..	..	..	..
2	45.76	24.94	12.50	..	..	..	..	..
3	36.81	45.42	8.72	50.00	..	..	..	..
4	23.08	48.18	21.51	20.69	—	..	..	..
5	17.86	43.09	28.78	11.00	14.29	..	..	..
6	12.17	33.96	32.37	15.85	14.29	100.00	..	..
7	5.94	22.51	27.04	18.42	12.24	—	—	..
8	3.16	16.23	17.72	15.13	11.32	18.75	—	..
9	4.35	15.15	13.33	14.75	14.95	2.70	—	..
10	1.14	6.90	8.49	10.17	14.29	11.11	40.00	—
11	4.60	3.67	6.39	7.18	6.54	10.48	8.33	—
12	3.61	4.59	3.90	4.26	6.68	16.91	—	—
13	—	4.67	0.80	1.93	3.47	5.71	8.51	—
14	—	1.96	1.06	1.63	2.74	4.79	9.80	—
15	—	5.00	0.27	0.82	0.50	3.33	9.43	8.33
16	—	2.11	0.53	—	1.73	2.04	3.77	6.25
17	2.50	1.08	0.26	0.33	0.25	1.99	5.56	11.79
18	—	—	—	0.33	0.25	—	1.85	5.56
19	—	—	—	0.17	0.25	0.67	—	—
20	..	..	..	..	..	..	..	..

（表4つづき）

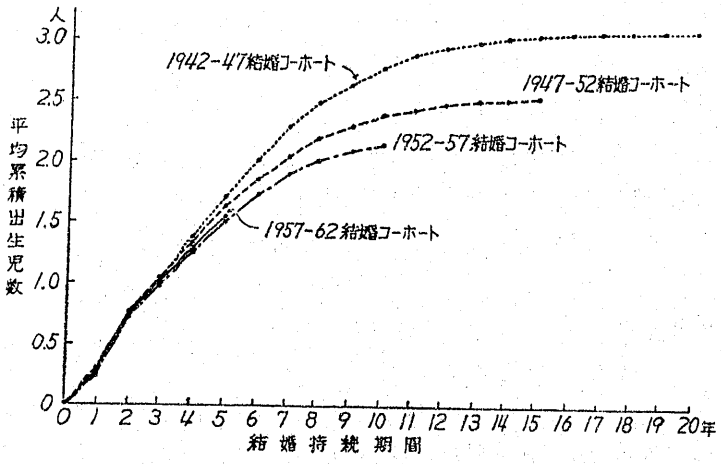
結婚持続期間（年）	(E) 結婚持続期間各期首におけるパリティー拡大率（%）								(F) 結婚持続期間各期首における1夫婦当たり平均累積出生児数
	P_0	P_1 (10)／(9)	P_2 (11)／(10)	P_3 (12)／(11)	P_4 (13)／(12)	P_5 (14)／(13)	P_6 (15)／(14)	P_7 (16)／(15)	
	(35)**	(36)	(37)	(38)	(39)	(40)	(41)	(42)	(43)***
0	—	..	..	..	..	..	..	..	—
1	21.54	—	..	..	..	..	..	..	0.22
2	70.14	1.28	—	..	..	..	..	..	0.71
3	83.80	21.68	0.62	—	..	..	..	..	1.02
4	89.76	53.45	3.52	3.33	—	..	..	..	1.39
5	92.13	73.93	17.09	3.38	—	..	:	..	1.72
6	93.53	83.88	35.56	5.85	3.45	—	:	..	2.02
7	94.32	88.61	52.96	13.09	4.85	20.00	—	..	2.28
8	94.66	90.85	63.83	23.46	7.42	5.88	—	..	2.49
9	94.83	92.17	69.11	31.84	11.99	9.76	—	..	2.64
10	95.05	93.14	72.30	39.54	19.11	5.81	—	..	2.78
11	95.11	93.55	74.27	44.26	26.54	10.14	14.29	—	2.88
12	95.33	93.57	75.73	47.21	28.75	16.56	11.11	—	2.95
13	95.50	93.70	76.43	48.85	31.99	26.32	6.00	—	3.00
14	95.50	93.99	76.38	49.71	33.66	28.43	12.07	—	3.03
15	95.50	94.11	76.53	50.37	34.90	30.23	18.46	—	3.05
16	95.50	94.41	76.36	50.74	34.94	32.26	24.29	5.88	3.07
17	95.50	94.52	76.39	50.65	36.07	32.59	26.03	10.53	3.08
18	95.61	94.47	76.40	50.77	36.12	33.78	28.95	18.18	3.08
19	95.61	94.47	76.40	50.94	36.16	33.63	30.26	21.74	3.09
20	95.61	94.47	76.40	51.02	36.26	33.92	29.87	21.74	3.09

* 夫婦総組数 1,778 より欄(9)各行の数字を差し引いたもの.
** 夫婦総組数 1,778 で欄(9)各行の数字を除したもの.
*** 夫婦総組数 1,778 で欄(17)各行の数字を除したもの.

の各表(F)欄に示した結婚持続期間各期首における1夫婦当たり平均累積出生児数を比較してみる.

これらの数字の比較を便ならしめるため，グラフ化して図1を作成した．これをみると，結婚最初の3年間における各結婚コーホートの間の平均出生児数の差異の幅はごく僅かなものである．結婚3年後の平均出生児数でみると，最大は1947－52結婚コーホートの1.04人，最小は1952－57結婚コーホートの0.98人で差は0.06人にとどまる．このあたりまでは，差を論じてもほとんど意味がなかろう．むしろほとんど差がないという現象を指摘しておくことが必要であろう．

図 1　結婚持続期間別1夫婦当たり平均累積出生児数，妻の結婚年齢30歳未満の初婚同士夫婦：全域



結婚4年後においても，平均出生児数の差は，まだ最大0.13人にとどまるが，この時点における大小順位が，その後の時点の大小順位を決定していることを注意しておきたい．すなわち，(1957－62結婚コーホートは結婚5年間しか観察できないので別として)，平均出生児数の大小順が1942－47結婚コーホート，1947－52結婚コーホート，1952－57

結婚コーホートの順になることが，結婚4年後からはじまっている．

結婚5年後の平均出生児数でくらべると，1942－47結婚コーホートは1.72人，1947－52結婚コーホートは1.63人，1952－57結婚コーホートは1.51人を示し，結婚10年後には，この順に2.78人，2.39人，2.15人となる．結婚5～10年の5年間の追加平均出生児数は，1942－47結婚コーホートが1.06人(1.62倍)，1947－52結婚コーホートが0.76人(1.47倍)，1952－57結婚コーホートが0.64人(1.42倍)で，1942－47結婚コーホートと1947－52結婚コーホートとの差は，1947－52結婚コーホートと1952－57結婚コーホートとの差よりも，結婚10後の平均出生児数においては，かなり大きくなっている．

1952－57年結婚コーホートの観察範囲は結婚10年間にかぎられるが，このコーホートの平均出生児の推移傾向をもっと先までのばして考えるならば，あえて曲線的補外推計をしてみるまでもなく，たとえば結婚15年後の時点において，1947－52結婚コーホートの平均出生児数よりもかなり下まわるであろうことは推測がつく．

結婚10年後から15年後の5年間に，1942－47結婚コーホートは，2.78人から3.05人まで0.27人，1947－52結婚コーホートは，2.39人から2.54人まで0.15人だけ平均出生児数を増加し，結婚15年後の時点における両者の差は0.66人に拡大している(結婚10年後では0.39人)．

以上のように，終戦時を中心とした5年間に結婚した1942－47結婚コーホートから，1950年代なかばを中心とした5年間に結婚した1952－57結婚コーホートに至る出生児数の減少は顕著である．僅かな差異まで採用するとすれば，結婚3年後以降では，全コーホート中1952－57結婚コーホートの平均出生児数が最小で，1957－62結婚コーホートの平均出生児数は，結婚最初の5年間のどの時期でも，1952－57結婚コーホートよりも上まわっている．その絶対差はごく小さなものとはいえ，この大小関係については，さらに詳細に検討する必要があろう．

上記で観察してきた平均累積出生児数は，これを出生順位別に分けて観察することが可能である．それは技術的には，表1～表4各表の(C)各欄について1夫婦当たりの平均値を求めることによって得られるが，簡単に観察するために，結婚5年後，10年後および15年後の時点をとって，各出生順位の平均累積出生児数の結婚コーホート間における差異をみよう．それを表5に示す．

まず結婚5年後の平均累積出生児数についてみると，1957－62結婚コーホートを除く他の3つの結婚コーホートの間では，第1子の平均累積出生児数は0.91人ないし0.92人でほとんど差がない．出生順位総数における差，すなわち，1952－57結婚コーホートの1.51人と1947－52結

表5　結婚5・10・15年後の出生順位別1夫婦当たり平均累積出生児数，妻の結婚年齢30歳未満の初婚同士夫婦：全域

出生順位	1957－62 結婚コーホート	1952－57 結婚コーホート	1947－52 結婚コーホート	1942－47 結婚コーホート
		結婚5年後		
総数	1.56	1.51	1.63	1.72
第1子	0.94	0.92	0.91	0.92
第2子	0.57	0.54	0.63	0.68
第3子	0.04	0.05	0.08	0.12
第4子	0.00	0.00	0.01	0.00
		結婚10年後		
総数	‥	2.15	2.39	2.78
第1子	‥	0.95	0.94	0.95
第2子	‥	0.83	0.85	0.89
第3子	‥	0.30	0.46	0.64
第4子	‥	0.06	0.12	0.25
第5子	‥	0.01	0.02	0.05
第6子	‥	0.00	0.00	0.00
		結婚15年後		
総数	‥	‥	2.54	3.05
第1子	‥	‥	0.95	0.96
第2子	‥	‥	0.86	0.90
第3子	‥	‥	0.51	0.69
第4子	‥	‥	0.16	0.35
第5子	‥	‥	0.04	0.12
第6子	‥	‥	0.01	0.04
第7子	‥	‥	0.00	0.01

婚コーホートの1.63人との差異，後者と1947－47結婚コーホートの1.72人との差異は，どれも出生順位第2子ないし第3子の平均累積出生児数の差に起因している．第2子は1942－47結婚コーホートの1夫婦当たり0.68人から1952－57結婚コーホートの0.54人まで減少し，第3子は1942－47結婚コーホートの0.12人から1952－57結婚コーホートの0.05人まで減少した．

1957－62結婚コーホートの結婚5年後の平均累積出生児数は1.56人で，1952－57結婚コーホートのそれよりも0.05人大であるが，この増加は第1子および第2子の両者における平均累積出生児数の増加にほぼ等しく起因している．

結婚10年後の平均累積出生数は，1952－57結婚コーホートが2.15人，1947－52結婚コーホートが2.39人，1942－47結婚コーホートが2.78人であるが，これらの結婚コーホート間の差異の大部分は出生順位第3子以降の出生児数の差に起因している．第1子の1夫婦当たり平均出生児数は，この3つのコーホートの間で0.94人ないし0.95人でほとんど同じであるし，第2子の平均出生児数も0.94人ないし0.95人で大した差ではない．第3子以降の平均出生児数は，1952－57結婚コーホートで0.37人，1947－52結婚コーホートで0.60人，1942－47結婚コーホートで0.94人で，1952－57結婚コーホートと1947－52結婚コーホートの平均累積出生児総数の差0.24人の96％は第3子以降の平均出生児数の差（0.23人）に起因しており，1947－52結婚コーホートと1942－47結婚コーホートとの平均累積出生児総数の差0.39人の87％は第3子以降の平均出生児数の差0.34人に起因している．

結婚15年後の平均累積出生児数は，1947－52結婚コーホートと1942－47結婚コーホートとの間で比較しうるが，ここでも第3子以降の平均累積出生児数の差が，総数における差の大部分を決定していることは明らかである．

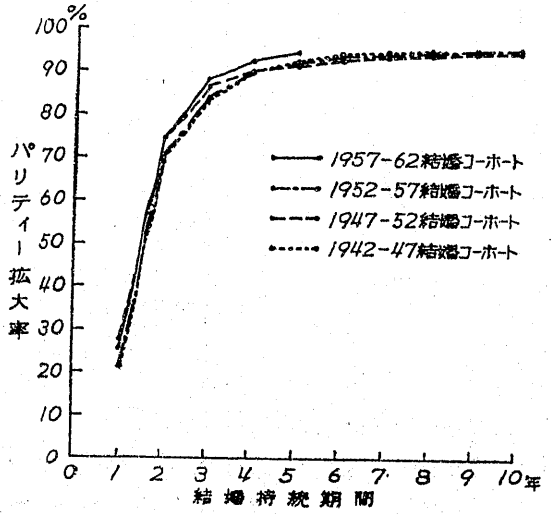
4　パリティー拡大率の推移

前節3では1夫婦当たり平均累積出生児数を各出生順位に分解して，結婚コーホートの間の変化を結婚持続期間の特定時点について観察した．次に，やはり出生順位的な観察であるが，パリティー拡大率の側面から各結婚コーホートの出生率の差異についてみることにする．観察の資料は，表1～表4の(E)結婚持続期間別パリティー拡大率の各欄による．

まず，P_0，すなわち，夫婦総組数に対する1児以上夫婦の割合からはじめる．これは前表5で扱った出生順位第1子の平均累積出生児数と全く同一のものであって，このP_0の余数は，無子夫婦の割合（無子率とよぶ人がある）にほかならない．各結婚コーホートのP_0の値を結婚持続期間各年（期首）について求めたものを図に示すと，図2のようになる．この図では結婚10年後までしか示していないが，どの結婚コーホートでも，P_0の値は結婚10年後には，ほぼ安定した値に到達する．

この図2をみると，結婚後4年以降では，1942-47，1947－52，1952－57のどの結婚コーホートのP_0の値もほとんど等しいことが目立っており，このどの結婚コーホートも，結婚10年後にはP_0の値は94.3％ないし95.4％のレベルに達している．

図2　結婚持続期間別パリティー拡大率 P_0（夫婦総数に対する1児以上夫婦の割合），妻の結婚年齢30歳未満の初婚同士夫婦：全域



1947－52結婚コーホートでは，結婚10年後の94.3％から結婚15年後の95.2％へ，1942－47結婚コーホートでは結婚10年後の95.1％から15年後の95.5％，20年後の95.6％へと結婚10年後以降の P_0 は僅かの増加がみられるにすぎない．

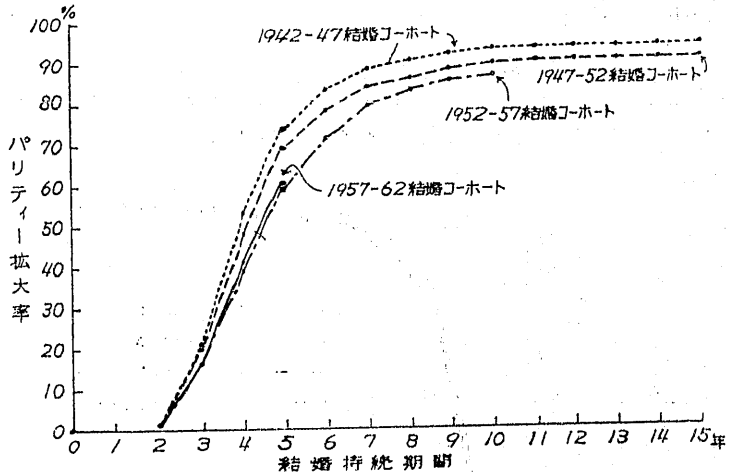
結婚1年後から3年後までの間では，1952－57結婚コーホートと1942－47結婚コーホートの P_0 はたがいにほとんど同一であって，他の2つの結婚コーホートの P_0 とくらべて，数％の差ではあるが小さい．

以上に指摘したことを総合して考えると，結婚最初の数年間の第1子の生み方が，1952－57結婚コーホートと1942－47結婚コーホートにおいては，1957－62結婚コーホートと1947－52結婚コーホートとの場合より，いくらか遅れをとったが，結婚4年後には1947－52結婚コーホートのレベルに追いついたということを示すものであろう．

1957－62結婚コーホートの P_0 は結婚3～5年後では，全結婚コーホートのうちで最大であり，結婚5年後の時点ではすでに94.5％に達しているが，他の3つの結婚コーホートでは91.4％ないし92.1％にとどまっている．この数字をそのまま受け取るとするならば，1957－62結婚コーホートの第1子の出生速度は結婚最初の5年間に関するかぎり，最も早いということになる．結婚5年後に P_0 の値がすでに94.5％に達しているのであるから，結婚10年後および15年後には，他の結婚コーホートの到達したレベルよりも高いレベルに到達するであろうことも推測され，もしそうなるとすれば，このコーホートの無子夫婦割合は，他のコーホートにくらべて実質的に小さいものとなろう．しかし，この程度の差は調査サンプルの偶然的かたよりによって生じたものであるかも知れず，1957－62結婚コーホートに至って，第1子出生の速度が高まったことを断言することはさけたいと思う．

次に，1児以上夫婦のうちの2児以上夫婦の割合である P_1 の値を比較すると図3のごとくであって，1942－47，1947－52，1952－57各結婚コーホートの間の差異は，P_0 の場合よりもずっと顕著になっている．すでに結婚3年後から僅かながら差がついているが，それ以降の比較観察可能期間の全範囲にわたって，この P_1 の値は，1942－47結婚コーホート，1947－52結婚コーホート，1952－57結婚コーホートの順に低下している．結婚10年後の時点でとらえるならば，P_1 の値はそれぞれ 93.1％，89.8％および86.7％である．

図 3　結婚持続期間別パリティー拡大率 P_1（1児以上夫婦のうちの 2児以上夫婦の割合），妻の年齢30歳未満の初婚同士夫婦：全域



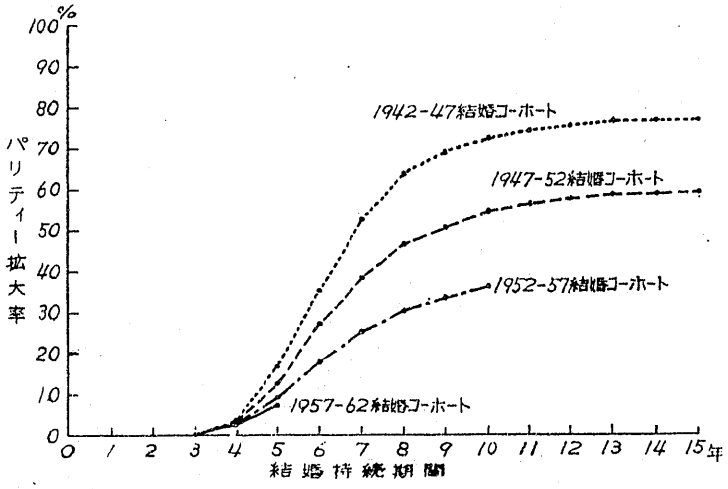
1957-62結婚コーホートの P_1 の値は，結婚3～5年後の期間において，1952－57結婚コーホートのそれよりも上まわるが，その差は1.5％を越えない程度のものであって，この程度の差を取り上げても意味はあるまい．1957－62結婚コーホートの結婚最初の5年間の P_1 の値は，1952－57結婚コーホートのそれとほとんど差がないとしてよかろう．

以上で図3から結論できることは，子を生んだ夫婦のうち第2子を生んだ夫婦の割合がすでに，結婚コーホート的にあきらかに低下してきたということ，ただし，1957－62結婚コーホートでは，1952

－57結婚コーホートとほとんど変化がないという2点である．

次に，2児以上夫婦のうちの3児以上夫婦の割合であるP_2の値を比較すると図4のごとくになる．このP_2に至ると，P_1で見出された結婚コーホート的低下が一層顕著となる．結婚4年後の時点では，まだほとんど差がないといった方がいいが，結婚5年後の時点では，1942－47，1947－52，1952－57，1957－62各結婚コーホートの順に，P_2の値は，17.1%，12.3%，9.2%，7.7%となり．1957－62結婚コーホートの値は1652－57結婚コーホートの値よりもここでは小さくなっている．結婚10年後では，1942－47結婚コーホートが72.3%，1947－52結婚コーホートが54.1%，1952－57結婚コーホートが36.5%という大差がついている．

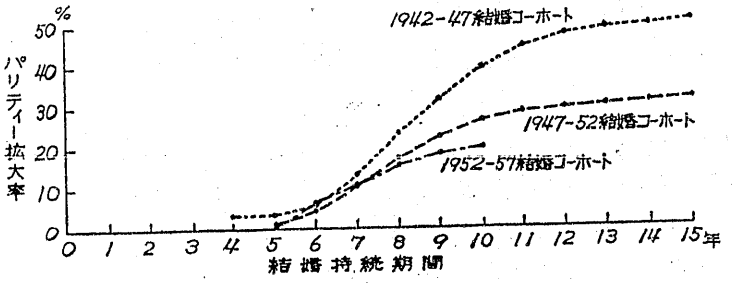
図4　結婚持続期間別パリティー拡大率P_2（2児以上夫婦のうちの3児以上夫婦の割合），妻の結婚年齢30歳未満の初婚同士夫婦：全域



次に5図はP_3（3児以上夫婦のうちの4児以上夫婦の割合）の変化を示したもので，ここでも，1942－47結婚コーホートから1952－57結婚コーホートへ向ってのP_3の値の低下は顕著である．結婚7年後までの値について，結婚コーホートの順位に乱れがあるのは，4児以上夫婦の実数が小さいことによる偶然的なものであると考えられる．

P_4以上についても，同様にコーホート的な低下がみられるが，説明を省略する．

図5　結婚持続期間別パリティー拡大率P_3（3児以上夫婦のうちの4児以上夫婦の割合），妻の結婚年齢30歳未満の初婚同士夫婦：全域



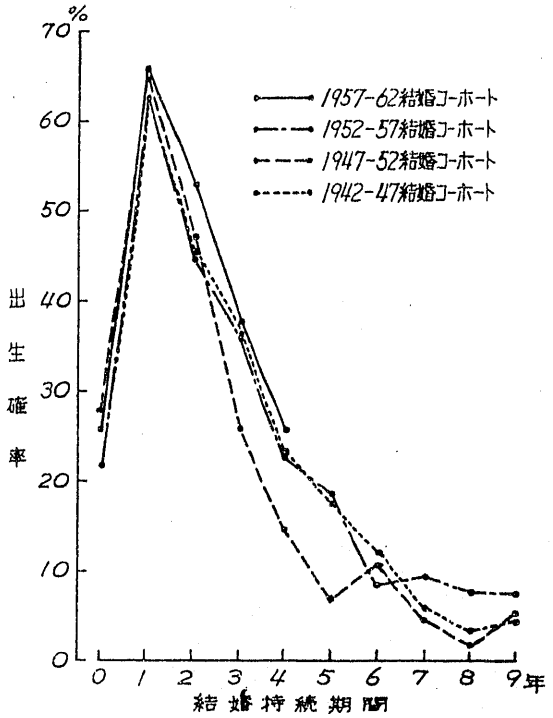
5　出生順位別出生確率の推移

表1～表4各表の(D)欄に出生順位別出生確率を示したが，それについて観察する．この出生順位別出生確率は，すでにのべたように，結婚持続期間の各年ごとに計算したものであるが，前節で扱ったパリティー拡大率は，その累積的結果の一つにほかならない．

図6は，出生順位第1子の出生確率をグラフにしたもので，第1子出生確率は，いずれの結婚コーホートにおいても結婚1年後から2年未満の1年間に最大に達し，1957－62結婚コーホートの65.9%，1947－52結婚コーホートの64.6%，1952－57結婚コーホートの62.7%，1942－47結婚コーホートの61.9%の順で，いずれも60%台にある．結婚期間の進むにしたがって，それ以後第1子出生確率は急速に低下して，結婚7年後には10%を下まわるに至る．ただし，結婚7年あたり以後は調査サンプルの出生児数が1ケタの数字になる程度に小さくなるので，乱れが大きくなる．

さて，1942－47結婚コーホートと1952－57結婚コーホートとは，結婚最初の6年間の出生確率はたがいにほとんど等しい．前述のパリティー拡大率P_0（図2）においてこの2つの結婚コーホートはた

図 6　結婚持続期間別出生順位第1子出生確率，妻の結婚年齢30歳未満の初婚同士夫婦：全域



がいにほとんど等しかったのは，この結果にほかならない．1942－47結婚コーホートは終戦の年の前後5年間に結婚したコーホートで，戦争末期の出生力低落期と戦後ベビーブームの初期とにかけての結婚コーホートであって，時期的に大きな変化のあった5年間を一括したもので，一つのグループとして扱うには難点はあるが，このコーホートと戦後の非常に出生力の低下した時期に結婚した1952－57結婚コーホートとの間で，第1子の出生確率が，第1子出生の重要な時期である結婚最初の6年間において，ほとんど全く差がないということは，注目しておくべきであろう．

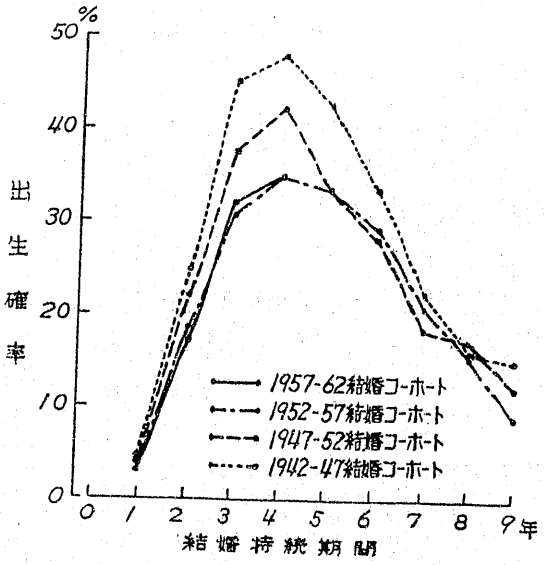
1947－52結婚コーホートの第1子出生確率は，結婚最初の3年間は，1942－47および1952－57結婚コーホートのそれよりも大である．すなわち，結婚最初の1年間では，1942－47および1952－57結婚コーホートがそれぞれ21.5%および21.7%であるのに対して，1947－52結婚コーホートでは27.8%である．結婚第2年では，1942－47および1952－57結婚コーホートがそれぞれ61.9%，62.7%であるのに対して，1947－52結婚コーホートでは64.6%である．結婚第3年では，1942－47および1952－57結婚コーホートがそれぞれ45.8%，44.5%であるのに対して，1947－52結婚コーホートでは47.0%である．結婚第4年以降の出生確率は，他の結婚コーホートにくらべていちじるしく低いことは図6の観察によってただちに分ろう．これは，上にのべたように，結婚最初の3年間の比較的高い出生率の必然的結果であろう．

1957－62結婚コーホートの第1子出生率が他のコーホートよりも高いであろうことは，すでに図2において示唆されたが，図6でみると，結婚第2年～第5年のこのコーホートの第1子出生確率は，他のどの結婚コーホートよりも高い．

次に，出生順位第2子の出生確率の推移を図7に示す．第2子の出生確率の比較的高い時期は結婚第3年から第8年までの6年間であるといえよう．そのピークは結婚第5年のところに見出される．上記の結婚持続期間範囲で，1942－47結婚コーホートにくらべると，1947－52結婚コーホートの第2子出生確率はあきらかに低下を示している．

1952－57結婚コーホートの第2子出生確率の推

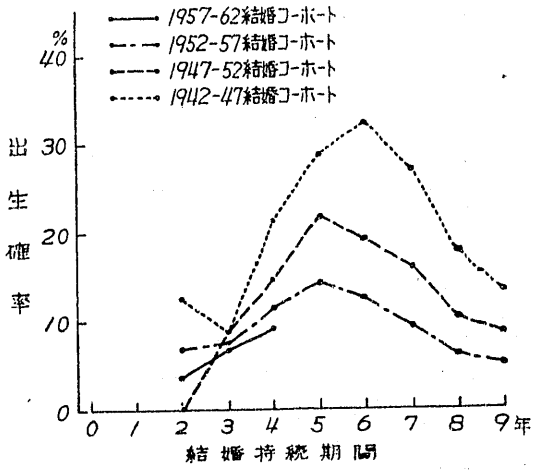
図 7　結婚持続期間別出生順位第2子出生確率，妻の結婚年30齢歳未満の初婚同士夫婦：全域



移は，その前の２つの結婚コーホートとくらべて，かなり型がちがう．すなわちピークの結婚第５年をすぎてから後の出生確率の低下の仕方が比較的ゆるやかになっている．そのために，結婚第５年までの出生確率は，1947－52結婚コーホートのそれよりも低いが，結婚第６年以降（第８年まで）1947－52結婚コーホートを上まわるに至る．

1957－62結婚コーホートの第２子出生確率は結婚第５年まで観察可能であるが，1952－57結婚コーホートのそれとほとんど同じであって，この二つのコーホートの間にはほとんど変化がみられないといってよい．

図８　結婚持続期間別出生順位第３子出生確率，妻の結婚年齢30歳未満の初婚同士夫婦：全域



次に出生順位第３子の出生確率を図８に示す．結婚第３年（結婚持続期間２年）の第３子出生実数は結婚コーホートによっては１ないし２という小さい数であるために，出産確率の乱れが大きい．ピークは1942－47結婚コーホートでは結婚第７年のところに見出されるが，1947－52および1952－57結婚コーホートでは結婚第６年のところに移行しており，全般的にあとの結婚コーホートほどこの第３子出生確率が低下していることは明らかである．

出生順位第４子以降の出生確率については，出生実数が次第に小さくなってゆき，出生確率の数値が不安定になってゆくので，比較を省略するが，表１～表４の該当欄を観察すれば分かるように，一般に最近のコーホートになるほど，出生確率が低下してきていることはあきらかである．

６　要　　約

今回の報告は，結婚コーホート別に出生力表を作製し，それに基づいて，結婚コーホートの間の出生力の差異を分析し，出生力の時代的推移を探究しようとしたものである．結婚コーホートとしては，1942－47年，1947－52年，1952－57年および1957－62年の各５年間に結婚した夫婦の４個のコーホートを取り上げた．1941年以前に結婚した夫婦は組数がすくないので対象から除外した．コーホートの夫婦はすべて妻の結婚年齢30歳未満の初婚同士夫婦に限定した．

出生力表所載の諸項目のうち分析に使用したものは，結婚持続期間別出生順位別１夫婦当たり平均累積出生児数，結婚持続期間別パリティー拡大率および結婚持続期間別出生順位別出生確率の３項目である．

古い結婚コーホートほど平均累積出生児数は大であって，たとえば結婚10年後の時点でくらべると，1942－47，1947－52，1952－57各結婚コーホートの平均累積出生児数は，それぞれ2.78人，2.39人，2.15人である．1957－62年結婚コーホートの平均累積出生児数は観察可能範囲の結婚最初の５年間において，1952－57結婚コーホートよりも僅かであるが大となっている．

出生順位第１子の出生力は，結婚持続期間別平均累積出生児数，結婚持続期間別パリティー拡大率，結婚持続期間別出生確率のいずれからみても，第２子以降の出生力にくらべると，結婚コーホートの間の差異がきわめて小さい．しいていえば，1947－52結婚コーホートでは，結婚最初の３年間に集中的に生む傾向が他のコーホートよりも強いということ，1952－57結婚コーホートの出生パターンは1942－47結婚コーホートのそれとはほとんど変るところがないということ，1957－62結婚コーホー

トの出生力は他のどのコーホートよりも高いという点などがあげられる.

出生順位第2子の出生力は，最近の結婚コーホートほど低下しているが，1952－57結婚コーホートと1957-62結婚コーホートとの間には,ほとんど差がみられない．結婚5年後の第2子平均累積出生児数でみると，1957－62結婚コーホートの方がむしろ若干大きい(0.54人に対して0.57人)．また，1947－52結婚コーホートでは，第2子出生確率のピークの時期である結婚第5年をすぎてのちにおいても，他の結婚コーホートほどには出生確率が急速に低下してゆかない.

出生順位第3子の出生力では，最近の結婚コーホートほど低下している状態が一層顕著である．また第3子出生確率のピークの時期が1942－47結婚コーホートでは結婚第7年のところにあったが，1947－52および1952－57結婚コーホートではピークが結婚第6年に移っており，第3子出生確率のおとろえ方が時期的に早まったといえる.

出生順位第4子以降の出生力の低下もまた顕著である．結婚10年後の時点における平均累積出生児数の推移をみるとき，1942－47結婚コーホートの2.78人から1952－57結婚コーホートの2.15人へと縮小したが，この縮小分のおよそ9割は第3子以降の出生児数の縮小によって寄与されており，第3子のみの縮小だけでも全体の縮小分の過半数を占めている.

全体を通じて注目さるべきおもな点をあげれば次のごとくである．(1) 1942－47結婚コーホートから1947－52結婚コーホートをへて1952－57結婚コーホートへと，全般的に出生力が低下したこと，(2) その低下の大部分は第3子以降の出生力の低下に起因していること，(3) 1947－52結婚コーホートでは結婚最初の数年間に集中的に子供を生む傾向が強まり，1952－57結婚コーホートでは，その傾向がふたたび緩和されたこと．1947－52結婚コーホートは，特にその結婚最初の10年間が，わが国において出生力の最も急激に低下した時期に当たっていたので，結婚最初の数年（戦後のベビーブーム期がひっかかる）をすぎると，出生力が急激に落ち，相対的に早期集中的出生パターンが形成されたものと解釈されよう．(4) 1957－62コーホートの観察可能な結婚最初の5年間に関するかぎり，1952－57結婚コーホートよりも出生力が僅かながら上昇し，その上昇は第1子のみならず第2子の平均累積出生児数にもあらわれていること．ただし，1952－57結婚コーホートとの差は全般的に小さなものであって，1957－62結婚コーホートに至って出生力が僅かでも回復したと断定してよいかどうかは疑問である.

Report of the Fifth Fertility Survey in 1967 (3)

Kazumasa KOBAYASHI

This paper deals with an analysis of changes in marriage cohrt fertility on the basis of fertility tables constructed for different marriage cohorts. The basic data come from the Fifth Fertility Survey conducted as of July 1, 1967 by the Institute of Popualtion Problems. The marriage cohorts used here are: 1) cohort married in 1942-47; 2) cohort married in 1947-52; 3) cohort married in 1952-57; and 4) cohort married in 1957-62. Those married prior to 1942 are omitted because of their small size for observation. Married couples of any cohort are limited to those first married with wives whose age at marriage is less than 30 years.

Fertility tables constucted have various items concerning couple fertility and items used here of them are: 1) average number of cumulative live births per couple by live birth order and by duration of marriage; 2) parity progression ratios by duration of marriage; and 3) birth probability by live birth order and by duration of marriage.

The older the marriage cohort, the greater the average number of cumulative live births per couple, for instance, comparing the family size at the time passed 10 years since marriage, the average family size of 1942-47 cohort, 1947-52 cohort, and 1952-57 cohort is 2.78, 2.39, and 2.15 births, respectively. Only one exception is the case of 1957-62 cohort, the average family size at the time passed 5 years since marriage of which is a little greater than that of 1952-57 cohort.

Difference between marriage cohort in the fertility of first births is considerably smaller than that in fertility of second or higher order births, viewed from any fertility indices like average number of cumulative live births, parity progression ratio or birth probability.

The younger the marriage cohort, the lower the fertility of second births, but there is hardly found any difference between 1952-57 cohort and 1957-62 cohort in the second birth fertility. The average family size at the time passed 5 years since marriage is a little greater in 1957-62 cohort rather than in 1952-57 cohort (0.57 vs. 0.54).

The younger the marriage cohort, the lower the fertility of third births, too, and this tendency is much clearer than in the case of the second birth fertility. The time the fiertility of third births reached its peak is found in the seventh year of marriage life for 1942-47 cohort, but that for 1947-52 and 1952-57 cohorts shifts to the sixth yaar of marriage life.

The decline of fertility of fourth or higher order births is also apparent comparing between different marriage cohorts. Average number of cumulative live births per couple at the time passed 10 years since marriage declined from 2.78 in 1942-47 cohort to 2.15 in 1952-57 cohort and 90 percent or so of this difference was contributed by the decline of fertility of third or higher order births.